科目名	和の伝統文化論		
教員名	中村　哲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	前期
到達目標	① 和の伝統文化の役割と創造に関心をもち、伝統文化の具体的領域に積極的に関与し、その理念と技法を体得する意欲を形成する。 ② 和の伝統文化の歴史と役割を考察し、これからの日本文化の創造を図る課題と方策を判断し、各自の見解を最終レポートとしてまとめる。 ③ 和の伝統文化の歴史と役割についての理解を通して、日本文化の特性と他国の文化との共通性に関する理解を深める。		
授業概要	第2次世界大戦後の日本は、民主主義社会の建設と資本主義社会としての経済的成長を図り、現在のように国際的に重要な貢献を図る国家として発展してきた。さらに、今日では世界の国々の相互依存関係だけでなくそのような関係を超えたグローバル世界における諸課題に対応する役割を担う状況に直面している。このような状況において、今後の豊かな世界を創造するために従来の政治と経済の機能重視から文化に関心が向けられてきている。なぜなら、文化は政治と経済の機能の土台になるとともに、地域・国家・世界の社会的一員としての個人を結集し、国際社会の創造を図る文化力を生み出すからである。そして、日本を含めて世界の国々は文化振興と文化発信の施策を積極的に実施している。さらに、わが国の教育ではグローバル世界における人材教育が求められている。このような社会的背景を踏まえて本講義では、「これまでの日本を基軸とする和の伝統文化がどのように形成され、現在社会においてどのような役割を担い、これからのグローバル世界においてどのように意義を有するのか」という問いを考察するところにある。		
授業計画	第 1 回　和の伝統文化論のオリエンテーション―授業の目的・内容・方法と趣旨― 第 2 回　和の伝統文化の真髄―和の心― 第 3 回　和の伝統文化の萌芽―日本の誕生― 第 4 回　和の伝統文化の形成1―記紀・万葉の世界― 第 5 回　和の伝統文化の形成2―皇室の伝統と文化― 第 6 回　和の伝統文化の形成3―神道・仏教・儒教― 第 7 回　和の伝統文化の伝統行事1―端午の節句と鯉のぼり― 第 8 回　和の伝統文化の伝統行事1―鯉のぼりの作成― 第 9 回　和の伝統文化の遊戯1―折り紙と ORIGAMI― 第 10 回　和の伝統文化の遊戯2―折り紙の作成― 第 11 回　和の伝統文化の芸道1－茶道の歴史と理念― 第 12 回　和の伝統文化の芸道2－茶道の所作― 第 13 回　和の伝統文化の武道1－居合道の理― 第 14 回　和の伝統文化の武道2－居合道の技― 第 15 回　和の伝統文化の意義―文化の継承と創造―		
授業方法	和の伝統文化として基盤になる「和の心」(梶田担当、第 2 回と第 15 回)と歴史的経緯(渡邉担当、第 3 回～第 6 回)については担当者の講義形式になる。さらに、和の伝統文化としての具体的領域として、伝統行事の鯉のぼり活動、遊戯の折り紙、武道、茶道を取り上げ、中村教員が講義する。(第 1 回、第 7 回～第 14 回)さらに、各文化領域の体験活動を取り入れる。なお、授業の順番性は担当者の日程で変更する場合または一部集中になる可能性がある。		
授業外学習	授業において指示される課題と考察レポートの作成		
教科書	適宜資料を配付する。		
参考書	梶田叡一『和魂ルネッサンス』あすとろ出版 2009 年 中村　哲『和文化 QA 事典』明治図書 2004 年 中村　哲『文化を基軸とする社会系教育の構築』風間書房 2017 年		
評価方法	成績については、出席日数(40%)、各授業での考察レポート(20%)、課題制作(20%)、講義内容を踏まえた各自の最終考察レポート(20%)に基づいて評価する。		
既修条件	なし		